

とわ
永久に輝くもの

今日はちょっと、これまでの人生を振り返ってみませんか。誰の人生も、山あり谷ありだと思いますが、「山」の部分でも「谷」の部分でも、ところどころに輝いている部分があるのではないのでしょうか。「人生の試練を通っている時には輝きなんてない」と思われるかもしれませんが、よく見てみると、そういう大変な時、暗い時にこそ、小さな輝きが宝石のような輝きを放つことがあります。

では、その輝きとは何でしょうか。人によって異なることでしょうね。でも、記憶に残っているものの多くは、人のかかわりではないのでしょうか。細かな背景や状況はだんだん記憶が薄れていくものの、誰かと交わした言葉は決して忘れなかったり、誰かの思わぬ心づかいにとっても励まされたことはしっかり記憶に残っていたりします。

また、親友と夜を徹して真剣に語り合った時のこと、子供時代に親や兄弟や友達と遊んだ楽しい思い出、あるいは、皆で心を合わせてスポーツが何かに打ち込み、喜びや苦しみを分かち合ったことなどが輝きを放っているかもしれません。それらは、すべて人との交わりからです。

けれども、コンピューターゲームやネットサーフィンに熱中したとか、一人テレビ番組や映画を見てすごしたとか、長い目で振り返った時、どれほどの輝

きを持っているでしょうか。その時には夢中で、とても大切なことだったかもしれませぬ。でも、心の中に永遠にとっておかれる宝物にはならないのではないのでしょうか。

そうした楽しさは、時と共に薄れていってしまうものです。自分が頑張って達成したことでも、その過程での人のかかわりに比べたら、達成自体はそれほど輝きを放たないかもしれません。達成自体よりも、それを支え、励ましてくれた周りの人たちとのふれあいのほうが大切な宝物になることもあります。

それを考えるなら、ちょっと仕事やコンピューターの手を休めて、または、テレビ番組や映画のスイッチを切って、その時間を、周りの誰かのために使ってみてはどうでしょう。自分の伴侶や友人が、悩みに耳を傾けてくれる人を必要としているかもしれません。子供が、あなたに話しかけようとしているかもしれません。

コンピューターもテレビも新聞も、いつもそこにあります。でも、人は、いつまでもそこにいるとは限りません。子供も、いつまでも子供ではないし、子供らしく親の相手を求めてくる時期というのは、そう長くはありません。あなたはこの一瞬を、永遠の輝きを放つ瞬間にすることもできれば、ただ時が過ぎるままにすることもできるのです。